

景観を特徴づけるアクセントカラーとデザインの調査研究

竹森 葵, 西野 杏花莉

[指導教員: 武庫川女子大学教授 北村 薫子]

キーワード: アクセントカラー, デザイン, 街並み, 景観, 植栽

1. 研究の背景

景観の印象に影響を与えているのは建築物の色彩ではないことが過去の研究から分かってきている。そこで、アクセントカラーの効果、窓やドアなどのデザインの効果が関係しているのではないかと考えた。

2. 本研究の目的

街並みの色彩、アクセントカラー及びデザインの実測調査に基づいて、色彩のデータ化、デザインの分析を行うことにより、各地のアクセントカラーとデザインの特徴を明らかにし、比較することを目的とする。

3. 本研究の位置づけ

街並み景観の印象に影響を与える要素として、色彩や素材などは注目されているが、アクセントカラーや窓やドアのデザインは重要視されていない。本研究では、アクセントカラーやデザインが景観を特徴づけていることを明らかにする。

4. 実測調査

4-1 調査対象

実測場所は、オフィス街(旧居留地, 中之島, 北浜)と住宅街(神戸北野異人館, ならまち, 中崎町)を選択した。印象が異なる地域で、重要文化財など街の代表的な建物がある通りを測定対象とした。

4-2 調査方法

一眼レフカメラを用いた画像測色により、街並みを構成する多数の要素を測色した。道路を挟んだ向かい側の建物の撮影を行った。手振れ防止のため、三脚とリモートシャッターを使用して撮影を行った。

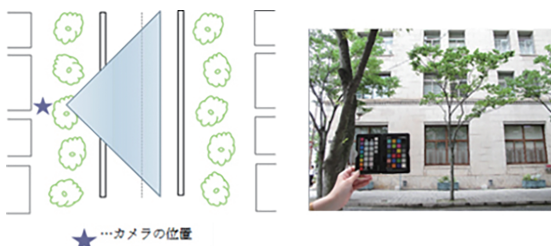


図1 調査方法

4-3 実測条件

実測調査の条件は、天候が晴れ、曇りの場合で、快晴の場合は除いた。時刻は日出3時間後から日没3時間前とした。

4-4 使用機器

デジタルカメラ (Canon Power Shot G11, レンズ 6, 1-30, 5mm 1:2, 8-4, 5), 三脚, リモートシャッター, カラーチェッカー, スマートデバイス (Apple, iPhone7, バージョン 12.1) を用いた。

4-5 測定値の算出とデザイン要素の抽出と分析

4-5-1 使用機器

測定値の算出には、画像編集ソフト (REALAPS), カラーチェッカーを用いた。デザインの分析には、スマートフォンの計測アプリを用いた。

4-5-2 方法

測定値の算出: 撮影時に Raw データに設定し、撮影した。REALAPS で x, y 値を測定した。x, y 値は、測色対象の 3 か所から抽出し、その値の平均をとり、色度値とした。平均をとる際は、小数第 2 位を四捨五入した。

デザイン要素の分析: 窓やドアなどの特徴的なデザインをスマートフォンの計測アプリを用いて撮影した。デザインに対してどのような意図があるのか、どのような形式なのかを明らかにするとともに、実測場所ごとに比較した。

4-6 オフィス街の実測調査結果

旧居留地の色彩は、特に緑が 116 ケ所のうち 34 ケ所と多く分布していた(図2)。景観を特徴づけるアクセントカラーは、緑であった。旧神戸居留地十五番館などの重要文化財とカフェの外観に類似点があった(表1)。

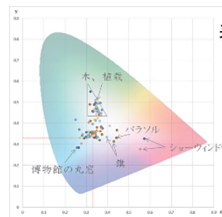


表1 旧居留地の建物の開口部の寸法【単位:m】

		旧居留地				
道路の幅		平均	121	121		
窓	縦	2.013	2.55	1.33	1.89	2.28
	横	1.175	2.03	0.52	1.08	1.07
窓格子	縦	0.933	0.93	0.94	0.93	
	横	0.207	0.19	0.24	0.19	
ドア	縦	2.503	2.07	2.09	3.35	
	横	1.53	1.83	1.22	1.54	
ドア格子	縦	×				
	横	×				

図2 旧居留地の色度 (x, y)

中之島の色彩は、ほぼ無彩色であることと、緑方向に分布していた(図3)。景観を特徴づけるアクセントカラーは緑と朱色であった。ドアの縦の寸法が長い点の特徴であった(表2)。

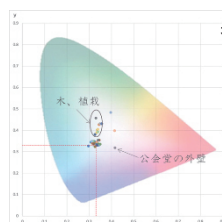


表2 中之島の建物の開口部の寸法【単位:m】

		中之島				
道路の幅		平均	8.5	7.71	9.29	
窓	縦	1.597	1.58	1.6	1.61	
	横	1.267	0.55	1.15	2.1	
窓格子	縦	0.617	0.78	0.453		
	横	0.455	0.44	0.47		
ドア	縦	2.56	2.26	3.03	2.39	
	横	1.447	1.51	1.46	1.37	
ドア格子	縦	×				
	横	×				

図3 中之島の色度 (x, y)

北浜の色彩は、ほぼ無彩色であることと、青と赤と黄に幅広く分布していた(図4)。緑への分布は少なかった。景観を特徴づけるアクセントカラーは、赤、青、黄などの高彩度であった。道路の幅が広く、平均を見るとドアの縦の寸法が長い点が特徴であった(表3)。

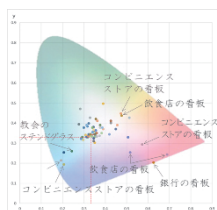


図4 北浜の色度 (x, y)

表3 北浜の建物の開口部の寸法【単位:m】

北浜					
道路の幅	平均	11.435	11.43	11.44	
窓	縦	1.647	2.63	1.06	1.25
	横	0.803	0.52	1.08	0.81
窓格子	縦	0.53	0.53		
	横	11	11		
ドア	縦	2.241	2.04	2.05	2.29
	横	1.351	2.37	2.14	2.07
ドア格子	縦		1.78	1.73	0.86
	横		0.85	1.48	1.34

4-7 住宅街の実測調査結果

北野地区の色彩は、赤、緑、青に分布していた(図5)。景観を特徴づけるアクセントカラーは、赤茶・緑であった。道路の幅は住宅街側が狭く神戸北野異人館側は広い点、窓の大きさの比率が類似している点が特徴であった(表4)。

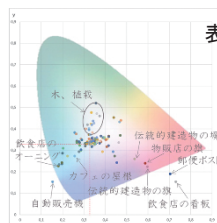


図5 北野地区の色度 (x, y)

表4 北野地区の建物の開口部の寸法【単位:m】

北野					
道路の幅	平均	7.325	5.46	9.19	
窓	縦	1.252	1.8	1.2	1.58
	横	1.277	0.71	1.3	1.51
窓格子	縦				
	横				
ドア	縦	2.094	1.92	2.18	2.24
	横	1.444	0.79	1.67	1.77
ドア格子	縦				
	横				
壁までの高さ					
壁までの高さ	平均	2.185	3.31	2.51	1.53

ならまちの色彩は、黄赤～青緑、緑～赤に分布していた(図6)。しかし、どれも景観の5～10%以下であったので、景観を特徴づけるアクセントカラーは無かった。道路の幅が狭い点、窓の大きさが縦は短く横が長い点、庇までの高さが低い点、ドアの高さが低い点、壁の格子がある点が特徴であった(表5)。

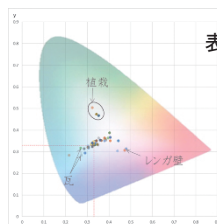


図6 ならまちの色度 (x, y)

表5 ならまちの建物の開口部の寸法【単位:m】

ならまち					
道路の幅	平均	2.733	3.13	2.73	2.34
窓	縦	0.723	0.69	0.75	
	横	0.453	1.2	2.61	2.62
窓格子	縦	0.69	0.69	0.69	
	横	1.79	0.28	1.69	
ドア	縦	0.821	0.52	0.84	1.95
	横	0.365	0.31	0.42	1.205
ドア格子	縦	0.035	0.04	0.03	0.57
	横	2.144	1.96	2.04	2.32
庇までの高さ	縦	0.95	0.36	0.22	0.79
	横	0.056	0.07	0.04	0.05

中崎町の色彩は、幅広く分布していた(図7)。景観を特徴づけるアクセントカラーは、外壁の赤、青、黄であった。窓が横長である点、ドアの高さが低い点、ドアの格子がある点が特徴であった(表6)。

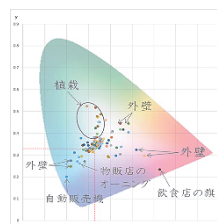


図7 中崎町の色度 (x, y)

表6 中崎町の建物の開口部の寸法【単位:m】

中崎町					
道路の幅	平均	4.89	4.9	4.88	
窓	縦	0.986	0.98	0.94	0.96
	横	1.708	1.57	1.16	1.35
窓格子	縦	0.374	0.7	0.08	0.15
	横	0.268	0.99	0.1	0.23
ドア	縦	1.976	1.89	1.92	2.13
	横	0.907	1.09	0.8	0.9
ドア格子	縦	0.374	0.05	0.58	0.26
	横	0.247	0.05	0.03	0.22
庇までの高さ					
庇までの高さ	平均	2.441	2.32	2.67	2.4

5. 街並みの比較と結論

オフィス街の比較：旧居留地と中之島は緑が景観を特徴づけていた。中之島は朱色もアクセントカラーであった。北浜は黄、赤、青の原色がアクセントカラーで、旧居留地、中之島とは違った結果が出た。道路の幅は旧居留地、北浜、中之島の順番に広がった。また、旧居留地と中之島のドアの高さは類似していた。窓の格子の大きさは、旧居留地は縦長、中之島はほぼ同じ、北浜は横長といった違いがあった。旧居留地の窓は大きく、北浜と中之島と比較して約1mの差があった。

住宅街の比較：北野地区は赤茶、緑、中崎町は赤、青、黄が景観を特徴づけていた。ならまちのアクセントカラーはなかった。北野地区とならまちは色彩ガイドラインがあり、色彩は調和していた¹⁾²⁾。ならまちと中崎町の窓は横長である点、窓の格子がある点、ドアの格子がある点が類似していた。ならまちと中崎町の格子を比較すると、ならまちの窓の格子は横幅 10cm 未満、ドアの格子は 5cm 未満で縦に長細かった。中崎町の格子は縦長、正方形、ひし形など、様々であった。ならまちのドアは最も低く、2m 未満であった。中崎町は長屋のドアはならまち同様低かったが、2 階建てや一般の住宅のドアは低くはなかった。北野地区は、ならまちと中崎町とは異なる住宅街であった。

6. 今後の課題

今回は実測地を関西圏に絞って検討を行い、比較を行ったが、全国の代表的な建物を持つ印象の違う街並み同士での比較を行えば、土地によつての違いが詳しく明らかになるのではないかと考えた。また、木・植栽は四季による色彩の変移が起こるものなので、実測する時期によって結果が異なるのではないかと考えた。

参考文献

- 1) 神戸市ホームページ「神戸らしい都市景観をめざして北野町山本通都市景観形成地域 北野地区景観ガイドライン」, http://www.city.kobe.lg.jp/information/project/urban/scene/index_k01.html (2018/11/19)
- 2) 奈良県 景観・環境局 景観・自然環境課 景観・屋外広告係「景観形成の基準解説」, <http://www.pref.nara.jp/12775.htm> (2018/11/22)